

| 学力調査等の状況 | | |
|--------------|------|------|
| 令和5年度 全国学力調査 | | |
| | 国語 | 算数 |
| 本校 | 65 | 62 |
| 東京 | 69 | 67 |
| 全国 | 67.2 | 62.5 |

国語、算数とも東京都、全の平均を下回った。国語では、「話すこと、聞くこと」が平均を大きく下回った。正しく読み取ること、聞き取ること、それに対して自分の考えをまとめて書くことを苦手とする傾向がみられた。さらに、漢字の書き取りも、若干ではあるが平均を下回った。算数は、「数と計算」、「図形」、「データの活用」でとの平均を大きく下回っている。「図形」では、基本図形の意味や性質の理解、「データの活用」では、2つのグラフや資料を組み合わせて読み取る力が不足していると考えられる。

| 見えてきた課題 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ICTの活用(スプレッドシート、スライド、フォーム)は、活用しているが、より効果的な活用法を工夫していく。 算数などで学力の二極化が見られる。基本的な計算、測定器具の使い方が定着していない児童もいる。 基礎学力の定着を図るために、個別最適化学習をすすめていく必要がある。 思考力・判断力・表現力を問う課題に苦手意識をもつ児童がいる。 |

| 授業をデザインする8つの取組について | |
|--------------------|--|
| 価値ある対話の共有 | 各教科の目標が達成しやすいように価値ある対話の共有がなされるような指導内容、方法を工夫する。考察や感想、考え方を「発表し、話し合う時間」を授業内で設けて、お互いに高め合うと考える |
| ICT機器の活用 | ICTを利用した授業を各教科で工夫する。電子教科書を活用したり、考えを共有したり、活動を記録し振り返る時に活用したりなど有効な場面を考えることで、児童の興味、関心、深い学びにつながると思える。 |
| 振り返りの設定 | 各時間のはじめに目標を定め、授業の終わりに振り返ることで、事故の達成度と理解不足なこと、さらに深めたいことを確認し、次の時間へのめあてが明らかになり、主体的に学ぶ意欲につながると思われる。 |

| 各教科における課題を改善するための指導の重点 | | | | |
|------------------------|--|--|--|---|
| | 年度当初に設定した重点 | 低学年 | 中学年 | 高学年 |
| 国語科 | <ul style="list-style-type: none"> ○すべての学習の基礎となる「読む」「書く」、更に「話す」「聞く」ことについての学力向上につながる指導をしていく ○言語活動の充実させるために詩や俳句に慣れ親しんだり、自学学習を通して語彙力を増やしたりしていく。 ○音読を日常的に取り組み、文章の構造と内容の把握を理解する力を身に付ける。 ○ブックトークやスピーチ活動を積極的に学習に取り入れ、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめる力をつける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書や音読集などの教材を工夫して、楽しみながら発声練習や音読練習をする。スピーチや発表の時に事前にメモをしたり、ノートに書いたりしてから発表するなど自信をもって、行える工夫をする。 ・日記、作文等を書く機会を増やし、文章を書く意欲を育てていく。 ・ブックトークや読み聞かせを計画的に行う。読書週間を利用して、子供同士の本の紹介を行い、読書への興味関心を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習の機会やブックトーク等を通して児童が様々なジャンルの本に触れ、読書への意欲につなげていく。 ・漢字学習等、辞書を活用する習慣を付け、語彙力を高めていく。 ・俳句、日記、作文等を書く機会を増やし、文章を書く意欲を育てていく。 ・自分の考えを整理するため書く時間を確保し、chromebookを活用し協働的に学び合う場を設定する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・詩や俳句等、優れた表現を味わったり、新出漢字の熟語を調べたりして、表現力や語彙力を高めていく。 ・文章読解では、叙述や根拠を基に自分の考えを伝えられる場の設定を多く設けていく。 ・ドキュメント・スプレッドシート等、ICTアプリの同時編集機能を活用して、友達のを参考にして、自分の考えを広げたり、まとめたてできるようにしていく。 ・電子書籍を活用し、読書に慣れ親しんでいく。 |
| 社会科 | <ul style="list-style-type: none"> ○導入では、効果的な資料を活用し、児童の興味関心をもたせる。 ○グラフや資料から、見て分かることだけでなく、考察や類推をさせて、知識をつなげさせていく。 ○知識の定着を図るとともに、学習した知識を生かし、スライドや新聞作りなどを通して情報を整理したり活用したりする活動を継続的にを行い、まとめる力や思考力を身に付ける。 | <ul style="list-style-type: none"> (中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点) ・探検活動では、事前に疑問を出し合い、探検後は、分かったことをカードに書いたり伝え合ったりして、地図などにまとめていくことで、学校や地域への関心を高める。 ・分からないことを、本やインターネットで調べて、大切な情報を自分で調べる機会を作る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・身近な社会現象から疑問を引き出し、学習課題をつくる。 ・時代や地域の差など、当たり前と思っている現象の背景を理解できるように資料を提示し、調べ学習を中心に進められるようにする。 ・知っている情報の違いを生かしながら伝え合い、広く理解を深めながら自分の考えをもつようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分事として考えられるように、単元の始めには疑問から学習問題を立てていく。 ・考えさせたい資料をスライドにまとめて、Jamboardに調べたこと、考えたことを書き込んで情報を共有する。教科書だけでなく、資料集、地図帳も活用して調べ学習を進めていく。 ・学んだことを生かして、スライドや新聞にまとめ、自分の意見や感想を入れるようにする。 |
| 算数科 | <ul style="list-style-type: none"> ○思考力・表現力が身に付くように協同的探究学習を各単元で2時間程度計画していく。 ○めあてを明確にし、自力解決の時間を設定し、自分の考えをノートに書く時間をとる。どの考えもよさを認める指導の中で人間関係を築いていく。 ○習熟度別学習においては、児童の実態を考慮する。全員が例題レベルの問題が解けるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な計算練習で技能の定着を図り、できたという喜びをもたせる。 ・量の学習は生活の中でも使えるように長期的に日常的に扱っていく。 ・問題の解き方や考え方を大切にし、子供同士で説明したり、発表したりすることで思考力を高める。 ・算数で学んだことを日常生活で活かすようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・定着に時間のかかる児童は、立ち戻る学習「ベーシックドリル」やナビマを個に応じた活用する。長期休業中や放課後に補習学習を行う。習熟別指導では、復習の内容を取り入れる。 ・式の意味を理解したり、説明し合ったりすることで思考力、表現力を高める。 ・新しい領域「データの活用」に向けて、資料の読み取り、表やグラフの作成を算数だけでなく他教科でも活用できるように計画する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・すすんで考えたいような授業展開を意図的計画的に行い、教え合い、深め合う時間を確保し数学的な考え方に広げられるようにする。 ・計算練習などの既習事項は、繰り返して行い定着を図る。 ・個別最適化学習を授業内だけでなく、家庭学習でも取り組ませる。 ・デジタル教科書を活用し、書き込みながら自分の考えを分かりやすく表現し、説明できるようにする。また、説明し合うことで、よりよい考え方や求め方に気付くことができるようにする。 |
| 理科 | <ul style="list-style-type: none"> ○学んだことを日常生活に生かす。LED照明など興味をもたせたり、自然のしくみを大切にたりする態度を養う。温暖化防止のための目標を決めて取り組む。実験では、結果を予想し、結論を出す過程で話し合いをし、課題を解決する力を養う。 ○実験や観察の結果を写真や動画で記録し、検討に生かす。 | <ul style="list-style-type: none"> (中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点) ・生活科の中で、雑木林での遊びにおいて植物などの自然と多く触れ合い気付きを大切に活動を重ねて、自然現象の理解につなげる。 ・継続的な飼育活動をするこによって生き物に親しみを持ち生命を尊重する心を培う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・電気の学習では、豆電球やモーターが日常でどこに使われているのかを考え、お互いに共有する。また、燃料電池やSDGsについて考える機会を設ける。 ・実験や観察の記録や調べ学習などで、chromebookを活用する。観察や実験の前には、目的を明らかにし予想し、終わりに考察をまとめるときに、目当てと照らし合わせてまとめるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・目的に合わせた実験器具の扱い方を指導し、実験や観察を適切に行えるようにする。 ・実験で確かめることを明確にし、実験方法を立案したり、修正したりする活動を取り入れながら学習を進めることで、思考力や判断力を育てる。 ・学習問題、予想や仮説、実験や観察、考察、結論という流れで学習することで、問題解決の方法を身に付け、主体的に取り組む態度を育てる。 |

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

| 各教科における課題を改善するための指導の重点 | | | | |
|------------------------|--|---|--|--|
| | 年度当初に設定した重点 | 低学年 | 中学年 | 高学年 |
| 生活科 | <ul style="list-style-type: none"> ○隣接する雑木林や片所谷戸を活用、地域の人々、施設や店との連携をして、具体的な体験活動を充実し、思いや願いをもち、主体的に学ぶ児童を育てる。 また、自分自身の生活について考えさせ、必要な習慣や技能を身に付けさせる。 ○伝え合う活動を多く取り入れ、思考力、表現力を伸ばすと共に、友達や身近な人々とかかわるよさや楽しさに気付かせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童の気付きを取り上げて広めたり、発問を工夫したりすることで、探求する意欲を高め、児童の学びが深まるようにする。 ・自分で表現方法を工夫したりする活動を取り入れる。 ・わかったことを、国語など他教科と関連付けながら、意欲的に表現できるようにする。 ・各単元で、伝え合う活動をできるだけ取り入れるようにする。 | | |
| 音楽科 | <ul style="list-style-type: none"> ○主体的に音楽にかかわり、友達と協働して学習に取り組めるように、授業の始めに、学習の見通しを持たせる。 ○友達の歌声や演奏を聴き、自分の演奏をより良くすることができるように、ペア学習やグループ学習を取り入れる。 ○今何を学習しているかの内容がわかるように、ディスプレイに学習内容を映し出し、全体で確認、共有する。 ○ワークシートを活用して、指導と評価の一体化を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常的にもいろいろなリズム遊びを紹介する。 ・鍵盤ハーモニカでつまずきのある児童には個別指導を行う。 ・鑑賞した内容を発表し合い、友達の発表から学んでいく。音楽の学習でも書いたり話したりする言語活動を多く取り入れる。 ・音符、リズムなど基礎知識を楽しく学べるよう工夫し、少しずつ定着させていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・音の少ない曲を選んでリコーダーの指使いが定着できるようにする。 ・常時活動でリズム打ちをし、簡単なリズム譜が読めるようにする。 ・歌唱活動では、歌詞の内容から曲を理解し、歌って表現できるようにする。 ・新しく高い音の指使いを覚えて、音域の広い曲にチャレンジできるようにする。 ・覚えたリズムに生かして、音楽づくりをする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・常時活動で、今月の歌で歌唱活動を積み重ねていく。 ・歌唱活動では、歌詞の内容や曲想からどのように歌いたいのか考え、歌って表現する。 ・どのように表現したいか、思いをもってグループ演奏する。 ・音や言葉を組み合わせて、音楽づくりをする。 ・色々な楽器の奏法を学習し、合奏をする。 |
| 図工科 | <ul style="list-style-type: none"> ○めあてを毎時間提示し、活動目標をはっきりさせる。アプリケーションを活用し、活動を振り返り、段階的な知識・技能の向上を目指す。 ○鑑賞学習でアプリケーションを活用し、言葉に表すことに苦手意識を感じている児童も気持ちを伝えられるようにする。 ○用具を試す時間を設け、より良い画材の使い方を発見したり、友達の工夫に気付いたりできるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな材料や用具とかかわりながら、思いのままに表現する楽しさを味わわせる。 ・色の濃淡や色作り、筆の使い方などの技能や材料に応じた道具の使い方を楽しみながら身に付けさせ、基礎的な知識・技能の定着をすすめる。 ・作品を見ることに興味をもち、友達とお互いの作品のよさを伝え合ったりする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間のめあてや活動内容を明確化し、材料や用具とかかわる時間を十分に確保することで、表したいことを見つけ、自分なりに工夫できるようにする。 ・のこぎりや彫刻刀など今まで経験のなかった新しい用具を使う際には、安全で正しい使い方を確実に伝え、実践できるようにする。また、それを児童に「できた」と感じられるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・板書や動画などを使って活動内容やめあてを視覚化することで、児童が迷うことなく活動に取り組む、「わかる」「できる」と個人が感じられるようにする。 ・アプリケーションを用いた鑑賞活動を取り入れることで、自分の活動を振り返り、まとめながらお互いの良さを認め伝え合うことができるようにする。 |
| 家庭科 | <ul style="list-style-type: none"> ○実物を見せたり、グループ別に指導したりして、集中して話が聴けるようにする。 ○既習の知識・技能の有無によらず基礎的なことから指導していく。 ○児童の学習意欲が支えられるよう、調理実習では選択の幅をもたせ、話し合いで決めるようにする。 ○学習したことを生かし、栄養のバランスを考えたレシピを作り、家庭で作って家の人の感想を聞き、レポートのまとめで発表会を開く。 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・授業では黒板掲示を工夫し、実物投影機を使い丁寧に分かりやすくする。友達同士の教え合いも取り入れる。 ・学習の流れとして「調べる」・「確かめる」を行った後、「実践する」では家庭でも生活に生かし定着できるようにしていく。 ・中学校に向けて基礎的学習(特に技能)の習得をめざす。 |
| 体育科 | <ul style="list-style-type: none"> ○様々な運動の楽しさを味わわせることにより、基本的な運動技能の向上と運動の生活化を図る。 ○日常生活における健康や安全について理解させ、健康の保持増進を図り楽しく明るい生活を営もうとする態度を育てるとともに基本的な生活習慣を身に付けさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードを用いて、めあてをもって主体的に取り組めるようにする。運動が日常化するように、休み時間の遊びなどを紹介する。 ・運動遊びを通して、体を動かしたり、友達と関わったりする楽しさに気付かせる。 ・音読カードの中に運動内容も盛り込み、日常的に行えるようにする。 ・児童が知らない遊びを伝えたり、体育の授業で取り組んだ内容を休み時間にも取り組めるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの運動において、毎時間めあてを設定(体育ノート等の活用)し、めあてを達成するための細かい手順を踏むことで着実に力を付けられるようにする。 ・手本となる児童の動きを観察させて、何がポイントなのか全体で確認する。個別で練習する時間を確保し、どの児童も技能を伸ばせるようにする。 ・運動カードを活用し、体作りを日常的に行えるようにする。 ・体育の授業で取り組んだ内容を休み時間にも取り組めるよう機会を設定し、運動することの良さ、楽しさを日常的に味わわせられるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・準備運動や補助運動に工夫を取り入れ、運動することの楽しさを味わわせる。 ・手本となる児童の動きを観察させて、何がポイントなのか全体で確認する。個別で練習する時間を確保し、どの児童も技能を伸ばせるようにする。 ・児童の実態を把握し、何が課題なのか、どうすれば上達するのかを個別に伝え、技能を高めることで運動に対するマイナスイメージを変えていく。 ・音読カードの中に運動内容も盛り込み、体作りを日常的に行えるようにする。 |
| 外国語科 | <ul style="list-style-type: none"> ○教科化による新たな教科書を活用した指導計画を基に、何を学ぶか課題を明らかにし、児童の主体性を育む。 ○本校の実態に応じた学習内容や、他教科と関連づけた内容を取り扱い、児童の思考力・判断力・表現力の向上を図る。 ○年間を通して、帯活動を入れ、よりコミュニケーションの基礎となる力を育めるようにする。 ○振り返りカードを工夫し、指導と評価の一体化を図る。 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・自分で選択、決定をして、自信をもって取り組めるように、多種多様な選択肢や、考える時間を設定する。一人一台端末を効果的に取り入れ、思考を深め、表現する力を育む。 ・場面や活動に変化をつけながら、アルファベットの小文字の定着を図る。(文字と音を結び付けて読んだり、書いたりできる段階まで) |

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

| 各教科における課題を改善するための指導の重点 | | | | |
|------------------------|--|--|---|---|
| | 年度当初に設定した重点 | 低学年 | 中学年 | 高学年 |
| 総合的な学習の時間 | <p>① 隣接する雑木林を活用したり近隣の工場・事業所と連携したりすることを通して、体験的及び探究的な学習を充実し、自ら考え、判断し、表現する児童を育てる。</p> <p>② 多様な体験的活動を設定し、実社会・実生活の中で活用できる学習の充実を図る。</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ設定、調べ始め、中間報告、まとめのときなど、要所で言葉かけをし、テーマを意識できるようにする。 ・資料を見付けられない児童に対しては、キーワードの提示、資料の提示など、細かい手順を踏みながら、情報を整理できるようにする。 ・スライドや新聞、ポスター発表など、相手に伝えるためにどんな手段を選ぶか、様々な発表方法を学べるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に調べ学習に取り組む姿勢が継続できるように、ICT等を活用して課題の与え方を工夫する。さらに学習の見通しがもてるように、板書や学習カードを工夫する。 ・複数の情報から共通点や相違点を読み取りながらまとめ、自分の考えを深める機会を増やす。さらに、友達と伝え合いながら、自分が調べたことを「より分かりやすく」まとめて発表させる。 |
| 特別の教科 道徳 | <p>① 道徳教育推進教師を中心に6学年間を見通した計画的、発展的な指導計画を立てる。</p> <p>② 児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、自分の考えを基に話し合ったり書いたりするなどの活動を充実させる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用するなど視覚的な教材提示を工夫して、内容が理解できるようにさせる。 ・自分の考えを表現しやすいペア学習や役割演技など自分の考えを表現できる活動を取り入れる。 ・たくさんの意見を板書し、友達の意見で良いと思ったものをワークシートに書くことで振り返りをさせる。 ・ペアでお互いに良いところなどを伝えさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童が教科書の内容を十分理解できるように、資料提示を工夫する。 ・価値項目について、児童が多様な考え方ができるように、場面や語句を精選して発問を考える。 ・登場人物を通した学習を踏まえて、児童が価値項目について自分ごととして捉え、考えを深められるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童に教科書の内容を理解させるために、教師の範読や資料提示を工夫する。 ・児童の多様な考え方を引き出すために発問を精選したり、対話・討論形式を取り入れて、児童が交流によって考えを深めたりできるようにする。 ・具体的な事例や場面を考えさせながら、児童の道徳的な実践の意欲や態度につながるようにしていく。 |
| 特別活動 | <p>① 行事や係活動、縦割り班活動などの集団活動を充実させることを通して、自己肯定感や他者と豊かに関わる心情に基づいた望ましい集団活動の展開と望ましい集団の育成を図る。</p> <p>② 委員会・クラブ活動・学級活動等で、自発的・自治的な活動ができる児童を育成する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの進め方にそって、自分の意見を発表したり、他の意見をよく聞いたりして、みんなで行うことの楽しさやよさを理解させる。 ・基本的な生活習慣や約束や決まりを守ることの大切さを理解して行動し、生活をよくするための目標を決めさせる。 ・自分の当番活動や仕事を行うことで、クラスの中で自己肯定感を高め、他者との関わり方を学べるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・理由を明確にして考えを伝えたり、自分と違う意見をとり入れたりしながら集団としての目標や活動内容について考え、実践させる。 ・自分の良さや役割を自覚し、よく考えて行動するなど節度ある生活が送れるようにする。 ・各学習活動、学校行事を振り返り、キャリアパスポートで成長を確かめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・相手の思いを受け止めて聞いたり、相手の立場や考え方を理解したりして多様な意見の良さを積極的に活かせるように指導する。 ・委員会活動やクラブ活動・縦割り班活動など異学年交流でリーダーとして高い目標が持てるようにする。 |
| 外国語活動・英語活動 | <p>① 学級担任とALTが連携した指導の確立及び専科による指導の充実を通して、英語によるコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力や異文化を理解する態度を育てる。</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ・推測しながら英語をよく聞き、反応できるように場面やICT機器の活用を工夫する。 ・英語ですすんで話しかけ、ALTや英語教師と楽しく関わり、友達同士との関わりにも繋がるようにすすんで褒め言葉を伝える。 ・他教科と関連付けながら、英語で様々なことが学べるように、体験的に学ぶ活動を設定する。 | |